

## 資料配布の場所

1. 国土交通記者会
  2. 国土交通省建設専門紙記者会
  3. 国土交通省交通運輸記者会
  4. 筑波研究学園都市記者会
- 令和7年7月4日同時配布

## 国総研資料第1322号 道路環境影響評価の技術手法(自動車の走行に係る騒音) を改定しました

国総研では、道路事業で環境影響評価を行う際の手引き書として「道路環境影響評価の技術手法」を作成しております。このたび、全16章構成の道路環境影響評価の技術手法のうち「第4章 騒音 4.1 自動車の走行に係る騒音」の部分を改定し、国総研資料第1322号としてとりまとめました。

今回の改定では、令和6年4月に更新された(一社)日本音響学会の道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2023”に対応した改定を行いました。道路交通騒音の予測・評価において、料金所のETCレーンやラウンドアバウト周辺部の騒音の計算方法が追加されるなど、これまでより適用範囲が広がりました。

### <道路環境影響評価の技術手法(自動車の走行に係る騒音) 目次>

- 4.1 自動車の走行に係る騒音
  - 4.1.1 事業特性の把握
  - 4.1.2 地域特性の把握
  - 4.1.3 項目の選定
  - 4.1.4 調査・予測区間の設定
  - 4.1.5 調査及び予測の手法の選定
  - 4.1.6 調査の手法
  - 4.1.7 予測の手法
  - 4.1.8 環境保全措置の検討
  - 4.1.9 評価の手法

本資料は、国総研ホームページで公開しています。

道路環境影響評価の技術手法(自動車の走行に係る騒音)

<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1322.htm>

道路環境影響評価の技術手法(全体) <https://www.nilim.go.jp/lab/dcg/kadail-asses.html>

### (問い合わせ先)

国土技術政策総合研究所 道路交通研究部 道路環境研究室

主任研究官 澤田 泰征(内線3652)

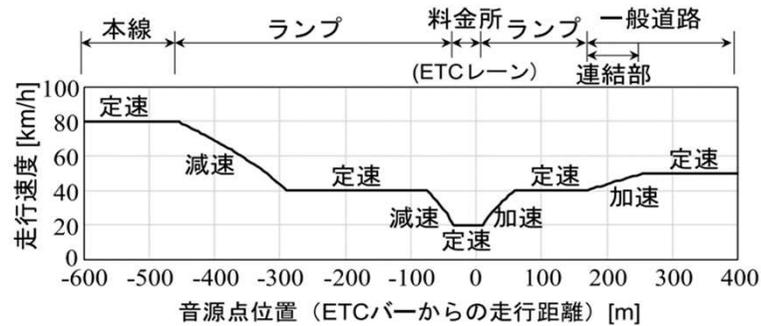
TEL: 029-864-2606 E-mail: sawada-y92eq@mlit.go.jp

# ASJ RTN-Modelの更新に対応した適用範囲の拡大例

- 予測手法はASJ RTN-Modelを使用
- ASJ RTN-Modelの更新によりETCレーンのある料金所、ラウンドアバウト交差点等の騒音の予測計算が可能になります。

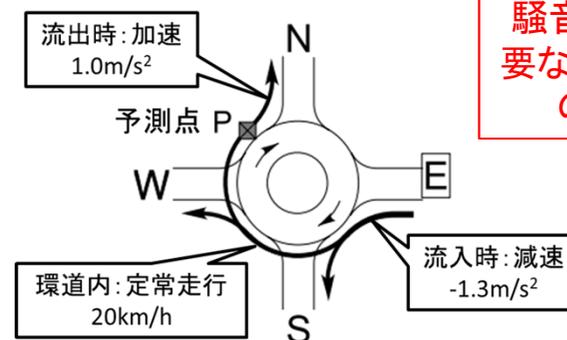
## ASJ RTN-Model 2023の適用範囲

項目	適用範囲	適用範囲の拡大部分	
対象道路	道路一般部	平面 盛土 切土 高架	
	道路特殊箇所	インターチェンジ部 連結部 信号交差点部 ラウンドアバウト周辺部 トンネル坑口部 掘り割り・半地下部 高架・平面道路併設部 複層高架部	料金所は一旦停止型だけでなく新たにETCレーンに対応 ラウンドアバウト周辺部を追加
交通量	無制限		
走行速度	定常走行状態 40~140km/h 加減速走行状態 (信号交差点部等) 10~60km/h 加減速・停止状態 (インターチェンジ部等) 0~80km/h		
予測範囲 (精度の検証されている範囲)	道路から 水平距離 200mまで 高さ 12mまで		
気象条件	無風で特に強い温度勾配の生じていない状態		



インターチェンジ部の走行速度設定例

(出典: ASJ RTN-Model 2023)



騒音の予測計算に必要な走行速度、加速度のデータを追加

ラウンドアバウト周辺部の走行速度設定例

(ASJ RTN-Model 2023 を元に作成)